まえがき

埼玉県衛生研究所は，県民の健康と生命をしっかり衛ることを目的に,埼玉県における衛生行政の科学的・技術的中核機関として，各種検査，調査研究，感染症などの疫学情報の収集・解析・提供,専門研修の企画・開催等を行っています．今年で吉見町への移転後4年目を迎えました.

本報の対象年度である平成28年度は，リオ五輪開催期におけるジカウイルス感染症の流行，本県をはじめ国内広域での麻疹の流行,「きゅうりのゆかり和え」を原因とする O157 集団食中毒,ノロウイルス GⅡ.2v による感染性胃腸炎の流行等様々な健康危機事例が発生しました.

その都度迅速な対応と,質の高い信頼性のある検査データの提供に努めておりますが,不測の事態に適切に対処するためには,確立された技術を用いて調査を行うとともに,高度な研究に裏打ちされたより高い技術と思考力が不可欠と感じます.

また，改正感染症法が施行され，病原体検査により一層の信頼性が求められるようになったほか，ゲノム配列解析やppbレベルでの微量化学物質の検出など，衛生研究所に求められる検査技術や検査項目は，年々高度化・多様化しており,高感度で信頼性の高い分析機器を整備しつつ,人材育成に努めているところです.

技術行政の基本であるEvidence-based policy makingを推進するためには,科学的根拠の探求が重要であり,本研究所では,これまでMLVA等分子疫学的手法を用いた0157等腸管出血性大腸菌感染症diffuse outbreakの原因究明のための疫学調査事業，県内における予防接種完了率全数調査事業等を通じて,本県の保健医療政策の推進に寄与して参りました.

今後とも,より一層,保健医療政策に役立つ調査研究に努めて参ります.

本号は，移転後3年目となる平成28年度について事業実績等をまとめたものです．各担当の業務実績や調査研究の実施状況（研究事業報告3編，調査研究1編，資料16編，雑誌等の紹介10編，口演等の紹介50編）を収録致しました.

ぜひ，御覧いただき，御活用いただければ幸いです.

末筆ながら,県内外の医療機関,研究機関ならびに行政機関の皆様には,平素より多くの御指導御支援をいただき,厚くお礼申し上げます.

今後も本研究所の業務並びに研究事業の推進に御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます.

平成29年12月

埼玉県衛生研究所

所　長　　中島　守